

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	文化地理学 (前期)		
科目基礎情報								
科目番号	0127		科目区分	一般 / 選択				
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	生産デザイン工学科 (物質化学コース)		対象学年	4				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	「料理の起源 (読みなおす日本史)」中尾佐助 (吉川弘文館)							
担当教員	白神 宏							
到達目標								
1. 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 2. 食材の加工法の類型と発展過程、伝播過程について考察できる。 3. 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について深く考察できる。		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性についておおまかに考察できる。		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できない。			
評価項目2	食材の加工法の類型と発展過程、伝播過程について深く考察できる。		食材の加工法の類型と発展過程、伝播過程についておおまかに考察できる。		食材の加工法の類型と発展過程、伝播過程について考察できない。			
評価項目3	異文化の事象を自分たちの文化と強く関連付けて解釈できる。		異文化の事象を自分たちの文化とおおまかに関連付けて解釈できる。		異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	世界の主食作物である米、麦および乳製品の加工法について、共通性と多様性、これらの発展、伝播過程について考察することを授業の目的とする。							
授業の進め方・方法	教科書に沿いながら、プリント・スライドを用いて授業を進める。							
注意点								
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標				
		1週	稲の品種と稲作	稲の品種と稲作の伝播過程について説明できる。				
		2週	米の料理 (1)	炊干し法、湯取り法、プラオについて、料理法、伝播過程について説明できる。				
		3週	米の料理 (2)	米料理の世界への伝播過程、ヤキゴメの特色について説明できる。				
		4週	麦の料理～パン～ (1)	麦の料理法の発展過程、アジアのパンの特徴と分布について説明できる。				
		5週	麦の料理～パン～ (2)	ヨーロッパ・中国のパンの特徴、日本のパンの伝播過程について説明できる。				
		6週	麦の料理～麺～ (1)	中国の麺の系列について説明できる。				
		7週	麦の料理～麺～ (2)	日本の麺の特徴過程に過程について説明できる。				
	8週	中間試験						
	2ndQ	9週	麦の料理～麺～ (3)	東南アジアの麺の特徴と伝播過程について説明できる。				
		10週	麦の料理～麺～ (4)	中央アジアの麺の特徴と伝播過程について説明できる。				
		11週	麦の料理～麺～ (5)	世界における麺の地域的特徴と伝播糧について説明できる。				
		12週	魚と肉の料理	肉と魚の料理法の地域的特徴と発展過程について説明できる。				
		13週	魚と肉の貯蔵	なれずしの特徴と地域的特徴について説明できる。				
		14週	乳製品 (1)	乳製品の生産方法の類型とその分布について説明できる。				
		15週	乳製品 (2)	乳製品の伝播過程について説明できる。				
16週		定期試験						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週			
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前3,前4,前5,前6		
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3			
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3			
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	前1,前2		

評価割合			
	試験	演習・レポート	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	90	10	100